

2020年5月20日

新型コロナウイルス感染症にかかる予防ワクチン・治療薬等の 研究開発への支援について

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された皆様の早期の回復と、一日も早い感染の終息を心よりお祈り申し上げます。

パナソニック株式会社は、国立大学法人大阪大学、大阪府等が推進している「新型コロナウイルス感染症にかかる予防ワクチン・治療薬等の研究開発」の取り組みに賛同し、総額2億円を寄付することを決定しました。

新型コロナウイルス(COVID-19)が世界的に流行し、また長期化の恐れがある中、国内では、外出自粛などの取り組み効果により段階的な自粛緩和が進められるなど、経済と防疫の両にらみという新たな局面を迎えています。しかしながら根本的解決のためには、予防ワクチン・治療薬等の研究開発および早期の実用化が不可欠です。

こうした中、大阪では、4月14日に「新型コロナウイルス感染症にかかる予防ワクチン・治療薬等の研究開発に係る連携に関する協定」を締結するなど、ワクチン・治療薬等の早期の実用化に向けた取り組みを進めています。

従来から、当社は、大阪大学と産学連携という形で、様々な共同研究を進めてきました。今回、当社は、大阪大学の、「ワクチン・治療薬等の研究開発を通して広く地域の皆様の健康維持と生活の質の向上に貢献したい」という崇高な目的に共感、また上記の協定の主旨に全面的に賛同し、ワクチン・治療薬実用化のさらなる加速のため、寄付という形で支援することを決定しました。

本支援を通し、大阪大学で進められている DNA ワクチンやエピトープワクチン等の有効性の高いワクチンの開発や、大阪府立病院機構で進められている、アクテムラやイベルメクチンなど既存薬を転用した治療薬の開発がさらに加速され、早期に実用化されることが期待されます。

国立大学法人大阪大学 総長 西尾章治郎のコメント:

「大阪大学は、新型コロナウイルスの流行による世界規模での厳しい状況が続く中、この危機を脱する極めて重要な手段である予防ワクチン・治療薬等の研究開発を加速させ、本学のモットーである『地域に生き 世界に伸びる』を具現化し、人びとの健康維持と生活の質の向上に貢献してまいります。

この度の、パナソニック株式会社様からの多大なるご支援に深く感謝申し上げます」

パナソニック株式会社 代表取締役社長 津賀一宏のコメント:

「当社は、今回の支援が世界中の人々にとっての安心・安全な暮らしを取り戻す一助となることを心より願うとともに、引き続き事業・支援活動を通じ『社会の公器』として、お役立ちを果たしていけるよう最善を尽くしてまいります」

以上